

## 自己評価票 寿楽ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域の中でその人らしく暮らしていただけることを支援する、事業所独自の理念をつくりあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。理念をヘルパー室に掲示し、常に意識付けをしている。また、ご家族の協力のもと布草履教室を毎月2回開催し、地域の方にも参加していただいている。	○  地域担当者を中心に、地域との交流を企画し取り組んでいる。泉南市内のグループホーム間での入居者交流を実施した。今後も継続することを泉南市と全事業所に要望している。布草履など入居者の作品を図書館に飾ってもらう事を企画中である。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月発行している平和苑だよりに理念を掲示し、ご家族や運営推進会議の方々へ配布し、地域の中での暮らしのあり方について理解していただけるよう取り組んでいる。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	昨年の花火大会にはご近所の子供さん達にも案内状を配布し、たくさんの参加があり、ひとときでも交流できた事は、当苑にとっては画期的であった。	○  今年度も取り組みを継続していき、布草履教室への参加も呼びかけていきたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園の運動会、生活発表会にご招待いただき、参加させていただいた。また、運営推進会議のメンバーでもある、泉南市介護者家族の会のご提案で、新年会には入居者のお芝居や和太鼓・ハンドベル演奏を披露させていただき、グループホームを地域の方に知っていただく機会となった。	○  消防署との合同避難訓練では、消防署の協力も得て消火活動などの指導を依頼し、地域への方へも案内をしていきたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	できていない。	○	運営推進会議で市担当者から一人暮らしの方への見回り訪問などのご提案をいただいたが、開設5年目に入り、看取りに近い入居者も2名おられ、現状では入居者だけに精一杯である。市が窓口の介護相談などの企画があれば、認知症介護についての相談役を引き受けたいと考えている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。昨年度の外部評価の結果は全職員が周知し、改善計画を作成し取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項についてその経過を報告し、一つひとつ積み上げていくようにしている。ボランティア受け入れや、事故件数の減少について、布草履教室については会議での提案・検討事項における成果である。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からは事業所間の意見交換会の場を提供してもらっている。当苑からは、事業者間における職員の交換研修制度の提案・入居者間の交流や事業所間での合同イベントなどの提案をし、全事業所にアンケート調査も依頼し、7月3日にはそれについての意見交換会が実施された。		【補足】事業者間職員交換研修制度は、すでに2回実施している。受け入れる施設側もたくさん研修生から得るものがあり、研修に参加した職員はスキルアップになっている。入居者の交流についても2回実施し、課題こそあれ、参加した当苑には大変いい勉強となり喜んでいる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会にて周知、理解している。 現在対象者はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年必ず年1回の研修会を実施し、全職員が周知徹底している。 管理者は職員の心のケアにも配慮し、職員間でいつでも助言できる環境作りをしている。	○	今年は管理者が7月12日に外部研修に参加し、それをもとに苑内研修をする予定である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	面談をし、十分に利用者や家族の思いを傾聴し、説明をし、理解を得ている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご意見箱を設置しいつでも投書していただけるようにしている。(現在までの投書は無し。)定期的に管理者や、サービス計画作成担当者が利用者へ不満などないか傾聴している。不満を伺った際には、即座に全職員に伝え、対応している。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月「平和苑だより」(写真入)を発行し暮らしぶりを紹介している。職員の異動も掲載している。隔月には個別外出の報告を写真入で作成し、管理者からは、近況報告を添えている。面会時には受診記録を提示し健康状態を報告している。お預り金は請求書送付時に領収書を貼付したご利用明細書を送付している。金銭出納帳は入金の際必ず閲覧していただき、サインをいただいている。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご意見箱を設置しいつでも投書していただけるようにしている。(現在までの投書は無し。)家族会では必ずアンケート調査をし、苑へのご意見ご要望を伺っており、運営に反映させている。6ヶ月ごとにサービス担当者会議を開催し、ご家族・入居者から直接意見を伺う機会を設けている	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎週木曜日にミニカンファレンスを開き、様々な意見や提案を聞く機会を設け、提案事項は全職員で毎日取り組み、翌週見直し、意見をまとめ、改善している。	
	○柔軟な対応に向けた勤務調整		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に合わせ、必要な時間帯に職員の確保はできており、必ず職員間での話し合いや調整を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職については時期や引継ぎ面で最善の努力をしている。離職の挨拶も「平和苑を卒業し、新しい人生へ出発する」という明るいものにし、入居者からも励ましの言葉をいただく事がある。新入職者には、入居者にきちんと紹介している。ご家族へは平和苑だよりで紹介している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、希望者には支援している。必ず研修報告を全体会議で発表している。苑内研修は毎月実施し、全職員で介護技術・医療・認知症対応など質の向上に努めている。	○	実践者研修が大変充実している為、毎年職員を一人ずつ受講させていきたい。(本年度はまだ大阪府からの研修日程の通達がない。また、昨年度も計画作成担当者等役職就任予定者以外のものはなかなか申込できずであった)
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者間での職員交換研修は、すでに2回実施している。受け入れる施設側もたくさん研修生から得るものがあり、研修に参加した職員はスキルアップになっている。入居者の交流についても2回実施し、課題こそあれ、参加した当苑には大変いい勉強となり喜んでいる。	○	今後泉南市が主催する事業所間の意見交換会へ、職員交換研修制度や、入居者交流制度を提案し、全事業者間での研修や交流ができればと検討中である。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1回自己目標を記載し提出してもらい、それに基づき面談をし、その際に悩みや要望を聞いている。ヘルパー室にて何でも話し合える環境作りに努めており、職員間のコミュニケーションも大切にしている。毎週ミニカンファレンスにて業務改善やケア内容について話し合い、全職員で取り組んでいる。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自目標を持ち勤務している。介護福祉士・介護支援専門員等の資格取得については苑全体で勉強会を持ち支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にてじっくり傾聴している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にてじっくり傾聴している。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談にてじっくり傾聴し、他施設や他のサービス利用についても説明をすることもある。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらう事から始め、体験的に日中時間帯を過ごしていただいたりしている。やむを得ずすぐ利用になった場合は、ご家族に面会回数を増やしていただき安心感を持ってもらうようにしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ずつのかかわりを大事にし、本人の思いを傾聴し、共感し、共に支えあえる関係作りに努めている。また、利用者は人生の先輩であるという事を全職員が意識し、様々な事を教えていただきながらお互いが協働し和やかな生活が出来るよう場面作りや声掛けをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や誕生会にご家族様にも参加して頂き、共に喜びの場面を共有していただいている。また6ヶ月ごとのサービス担当者会議にもできるだけご家族様にも参加して頂き、ご本人をどう支援していくかを共に考え、励ましあう関係作りを築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面談時に詳しく経緯を傾聴し、全職員が情報を共有しており（個人の何でも情報に記載している）、入居後にもより良い関係が築いていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば馴染みの美容院や店に出かけている。電話も自由にかけていただき、電話機の扱いがわからなければ支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全職員が利用者同士の関係を把握しており、その上で利用者同士の声の掛け合いの場面作りもし、利用者と共に家事やレクリエーション等を実施し、仲間意識も出来ている。また、ユニット間の交流も進め、自由に行き来していただいている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了が入院の場合は、お見舞いをしお付き合いをしてきた。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	隔月に実施している個別外出や、日々の生活の中で、買い物や受診希望など個別に希望は伺っている。本人の意思が確認できない場合は、家族からの助言を踏まえ本人の状態に合った生活や外出を支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に管理者と介護支援専門員とでかなり詳しく状況把握に努めている。情報は全職員が共有している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員が意識して様々なかかわりを持ち、「何でも情報」にまとめ、個性や能力を引き出し、心身の状態、有する力等の現状の把握に努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。職員全員でカンファレンスやサービス担当者会議で意見交換をし、介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況を把握する為にケアチェック表を作成し、効果などを評価すると共に、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。連携医療機関の看護師にも意見を聴いている。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の様子やケアの実践・結果等を記録し、受診記録には、病状や薬について必要な情報を記載し、全職員が必ず読むことを徹底し、情報を共有している。心身の状態に合わせて、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は実施している。医療連携体制を活かして入院の回避に努力し、医療処置(点滴など)を受けながらの生活の継続を支援している。また入院になった場合は早期退院の支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	固定したお話相手ボランティアさんが来てくれるようになり、入居者にも楽しみとなっている。消防署と年1回の合同訓練を実施している。地域の幼稚園から生活発表会や運動会等にご招待していただき、参加させていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性があれば、他のサービスの活用を支援していく。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性があれば、地域包括支援センターと協働していきたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院時にかかりつけ医の希望を確認している。連携医療機関の野上病院・高松歯科により、毎週訪問診察を受けている。他の医療機関の場合はご家族による通院となっているが、不可能な時には職員が付き添いしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要があれば専門医への受診・治療は職員も同行し、医師と直接相談・助言をしていただいている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	連携医療機関である野上病院の看護師が日々のバイタルチェック・服薬管理をして下さり、利用者の健康状態について、気軽に相談することができ、早期の受診・治療が可能である。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ほぼ毎日見舞いに行き、励まし等の支援をしている。病状についても説明を随時聞き、医師ともよく相談し、早期退院への支援ができています。(医師も認知症患者であることをよく理解され、認知症の進行、ADL低下を心配し、早期退院または苑での通院治療などを考慮していただいている)		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り」についての指針を作成し、苑が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。その上で終末期のあり方について事前意向確認書を提出していただいている。状態の変化があるごとに家族・医師・看護師・職員を交えて十分に話し合い、本人・家族の思いを大切に支援している。	○	現段階で、事前意向確認書の未提出2名。まだ説明できていないご家族1名あり。早急に説明していき、提出していただくよう図りたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族・本人の思いを十分にくみ取り、その上で苑でできること・できないことを見極め、主治医や担当看護師からの助言もいただきながら支援している。現在は落ち着きを取り戻し、安定しておられるが、今後の変化に備えて、勉強会を持ち、対応の準備を行っている。	○	「看取り」についての勉強会を定期的に、または、今回初めてのケースとなられるであろう利用者の状態に合わせてそのつど話し合い、対応していきたい。年内にはマニュアル化していく考えである。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>言葉がけについては、日々の暮らしの中で、ついついなれなれしくなりがちなので、たえず意識して定期的に目標を持ち、全職員で取り組んでいく事を継続していきたい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別外出時には利用者の希望や能力に合わせてお金の所持や使用について支援している。ただし所持金については、すべてヘルパー室にて管理している。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「動きたくない」と座りきり、居室にこもりがちの方が多いため、畑作業・買物・散歩・苑庭でのおやつなど企画し、季節を肌で感じていただき、心身の活性につながるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	隔月に担当職員が個別外出に同行し、事前に利用者と企画し、外食・買物・ドライブ・歌舞伎など楽しんでいただいている。ご家族との外出・外食は希望があれば支援している。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙を書いたりなど、個々の能力に応じて支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	「ようこそお越しくございました」という歓迎の気持ちで、職員も対応に配慮し、気持ちよく過ごしていただけるよう、また、状況報告等楽しい会話に心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会にて全職員周知徹底し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外部研修にも参加予定である。	○	外部研修会への参加（7月12日） 苑内研修7月下旬予定


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	できている。	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	趣味活動で手芸をされている方には、居室内に裁縫箱や、ハサミを置いていただいている。道具の理解ができない方については、職員が管理させていただいている。	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	一人ひとりの病状・身体能力・認知症状・服薬について年1回のリスクマネジメントの勉強会で全職員周知し、転倒事故等原因・今後の対応など話し合い事故防止に取り組んでいる。もちろん事故の都度、すぐに対応を検討し実践している。火災については、消防署との合同消火訓練で、火災についての指導を受けている。	
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	年1回勉強会にて訓練している。不安な職員については、随時指導している。	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練をしている。(そのうち1回は消防署との合同訓練)	○ 昨年初めて消防署との合同訓練を実施した。今年度は、消防署にも協力していただき、地域の方の参加も呼びかけたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	ADLの低下に伴い、その都度家族には、起こり得るリスクについては説明させていただいている。すでに転倒など事故があった方については、居室の様態替え、手摺り代わりの安定した椅子の設置など対策を講じている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	体調の変化や異変を発見した際には、全職員に伝達ノートや口頭にて伝達し、様子を観察する。または状況によっては、すぐに連携医療機関である野上病院へ相談し、受診等の対応をしている。	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	年1回勉強会にて服薬について、効能や、副作用等周知し、服薬の支援、症状の変化の確認に努めている。薬ファイルをいつでも見られるようにヘルパーデスクに置き、疑問等あれば、すぐに確認している。	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	排便コントロールの必要な方の排泄チェック表にて、常に排便状況を確認している。水分摂取を意識し、腹部マッサージ・朝食後のトイレ誘導・下肢運動など積極的に取り組んでいる。	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	食事は毎回チェックしている。夏場にどうしても食事が落ちる方には、医師と相談し、経腸栄養剤を処方してもらっている。水分量は利用者全員の一日の水分量を調査し、全職員が把握し、水分摂取の支援をしている。むせ等で水分が取り辛い方のためにお茶ゼリーを常備し提供している。年1回は連携医療機関である野上病院の管理栄養士の専門的アドバイスを受けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、予防・対応を実行している。職員・入居者とも手洗い・うがいの徹底をし、手すりやトイレ内の塩素消毒等、最善の注意を払い予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は熱湯処理、または、塩素消毒を每晚実施している。食材は必要数のみを前日購入、魚は当日購入している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターに花や観葉植物を植え、親しみやすい環境にしている。以前2階に下駄箱を置いていたが、入居者にとっては狭く危険であったので、1階の長いすを利用し、安全に自分で靴を履いていただく為、ギャラリーと玄関を共有する事にした。入居者の作品や季節の花を飾り、明るい雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るようにしている。皆さんの大好きな唱歌や懐メロをかけ、楽しい雰囲気作りに努めている。台所が中心にある為、調理の音や匂いなどいつも感じていただくことが出来る。新年の書き初め、七夕の笹飾り、クリスマスツリーなど季節ごとの環境設定にも工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ出入り口に椅子2脚とミニテーブルを設置、ちょっとした間仕切りに手作りの和風のれんをかけ一人になれる空間を設けている。他ユニットの方とベランダを通して行き来され、その場所で和やかに談話されている。また、廊下での歩行訓練中の休息場所にもなっている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	ご家族様のご協力で、アルバムや使い慣れた物・ 馴染の物を居室に置いていただき、過ごしやす いように工夫していただいている。また、ADLに 応じて危険のないようご家族と相談の上、随時家具 の配置換えをしている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	各居室に換気扇を設置し、常時稼働している。温 度調節には慎重に設定している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、居室内歩行不安定な方 には、安定した椅子を設置したり、タンス・ベッ ド・テーブルの配置を工夫して、手すりになり るようにしている。夜間のみポータブルトイレ を設置することで、見守りのもと、安全に自立排 泄できている方も数名あり。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレの場所がわからない方には、カーテンを少 し開けて便器が見えるよう配慮している。一人 ひとりの表情や動きを察知し、混乱のないよう、声 掛けをするなど配慮している。居室内にご家族の 写真を飾るなど、ご自分の部屋である事を忘れ ない環境設定に工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	苑庭にベンチを置き、屋外でのレクリエーション やおやつ、畑作業など楽しみながら活動でき ている。ベランダにもベンチを設置している。ベ ランダ出入り口の開閉は自由なので、息抜きに 出られたり、自主的に洗濯物の取り込みなど されている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の進行とそれぞれの持病の悪化により、身体介護の必要度が増し、以前ほどレクリエーションはできてはいないが、平和苑が一番力を入れて取り組んでいるのは生活リハビリとレクリエーションである。ADL低下の防止と心のケアが目的である。全員でレクリエーションができない日には、個別のレクやリハビリを実施している。できるだけ屋外に出る機会を作っている。光にあたり、季節の風を感じ、畑の作物や四季の草花を愛で五感を刺激し、体中を活性化することに努めている。食前には嚥下促進の為に健口体操や発語訓練・簡単な手指体操などを実施している。いつも歌声や笑いが絶えない楽しい雰囲気作りにも努めている。そうしたかかわりの中で、入居者様の笑顔を引き出し、個性や能力を引き出し、生きる意欲へとつなげていくことを最重要視している。またそれらの取り組みの総まとめとして、毎年家族会には入居者様のお芝居を発表している。入居者様それぞれの能力や個性を十分に発揮でき、日頃の入居者様方の輝いた表情を見ていただく事が目的である。ご家族様方も楽しみにされているようである。さらに隔月には個別外出を企画している。担当職員がじっくりと入居者様の思いを受け止め楽しみ事を増やし、できないとあきらめていたことができるという希望をもっていただけるように支援をしている。そして必ずご家族様に写真入りで個別外出の報告書をお渡しし、管理者が現状の身体状況なども添えている。さらに平和苑だより(写真入り)を毎月発行し、行事や日々の生活ぶりをご報告させていただいている。(運営推進会議でも公表している)ご家族様方も苑だよりを読むのが楽しみであると感想をいただいている。